



静岡模型教材協同組合に感謝状を贈呈

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は2月9日（火）、株式会社タミヤ本社（静岡市）において、静岡模型教材協同組合に感謝状を贈呈した。

これは、静岡地本に対し功労のあった団体又は個人に対し、本部長から感謝の意を表するもの。

同組合は、毎年5月に静岡市において国際的な模型イベント「静岡ホビESHOW」を開催しており、会場正面に自衛隊の装備品展示と広報ブース用のスペースを設けている。今回、こういった長年にわたる自衛隊の広報活動への協力に対し、感謝状が贈られた。

贈呈の場には、同組合の加盟団体である株式会社タミヤの会長、株式会社青島文化教材社の会長及び社長、株式会社ハセガワの社長が出席した。



杉谷本部長が「多くの来場者に対し自衛隊を広報できる機会を

提供し、多大なる貢献をされました。深く感謝の意を表します」と感謝状と盾を手渡すと、同組合理事長のタミヤ会長・田宮俊作氏は静岡模型の歴史や活動にふれ、「静岡ホビESHOWのように、プラモデルと実際の装備品が一度に見られるイベントは世界的にも珍しい。今後もよろしくお願いします」と引き続き自衛隊への惜しみない協力を意欲をみせた。

静岡地本は、今後も県内のさまざまな団体等と協力し、県民に自衛隊への理解を深めてもらえるよう広報活動に邁進していく。



LCACが沼津でビーチング訓練を実施

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は2月14日（日）、沼津市今沢海岸で行われた、海上自衛隊掃海隊群隷下第1輸送隊第1エアクッション艇隊（広島県呉市）所属エアクッション艇・LCAC（エルキャック）のビーチング訓練に協力した。

ビーチング訓練とは、海上の輸送艦から発進したLCACが海岸への揚陸と離岸を繰り返し行い、艇を運用する隊員の練度向上を目的に行われるもの。国内で同訓練が実施できる場所は、北海道釧路市星が浦海岸、宮崎県日向市細島小倉ヶ浜海岸、東京都硫黄島、そして今回行われた沼津市今沢海岸の計4カ所のみ。

LCACは港や桟橋がなくても人員や物資を陸上に運ぶことができるため、今後予想される大規模災害発生時の災害救援でも活躍が期待されている。



当日は、全国的にも珍しい訓練を見ようと市民などが海岸に集まり、揚陸・離岸の様子や、砂浜に停止している艇体を興味深げに見学したり、LCACの乗員から説明を聞く姿が見られた。

訓練を行ったLCACの艇長（クラフトマスター）は「四方を海に囲まれ、6800もの島々からなる日本の離島防衛はもちろん、東日本大震災やインド洋大津波、フィリピンの台風被害といった海外の大規模災害でもLCACが活躍した。有事、平時を問わず能力を発揮できるように、誇りを持って全力で訓練に臨んでいる」と熱く語った。

静岡地本は、一人でも多くの県民に自衛隊の日頃の活動を知ってもらうため、今後も積極的にPRを行っていく。

